

中世 岩切城跡 (宮城野区)

高森山の尾根を削り、多数の平場を造り出し、要所を掘切(尾根を断ち切る空堀)で区画しています。昭和10年に調査が実施され、建物跡が確認されました。

観応2年(1351)の戦いの記録に見られ、留守氏の居城とされています。城のある高森山に由来して、留守氏は高森殿とも呼ばれました。



岩切城跡中心部

近世 仙台城跡 (青葉区)

仙台城は、仙台藩の初代藩主伊達政宗が慶長5(1600)年から築造を開始した城郭です。仙台城跡石垣修復事業に伴い、平成9年から本丸跡の発掘調査を実施し、江戸時代前期の何回かの地震により石垣が崩れ、そのたびに縄張りを拡張整備していったことが明らかになりました。また、平成13年度から、大広間跡を中心とする発掘調査を行いました。



仙台城跡

仙台市域と日本の略年表

時代区分	年代	主なできごと	時代区分	年代	主なできごと
旧石器	約30000年前	市内で人が活動し始める (上ノ原山遺跡)	奈良	710年	平城京へ都が移る 陸奥国分寺・陸奥国分尼寺が造営される
	約20000年前	山田上ノ台遺跡に石器製作跡、 富沢遺跡にキャンプ跡が残される	平安	794年	平安京へ都が移る
	約13000年前	土器の製作・使用が始まる 野川遺跡に石器貯蔵跡が残される 土器の文様として縄文が定着する	平安	869年	仙台平野で震災(地震・津波)がある。
縄文	草創期		鎌倉	1192年	源頼朝、征夷大將軍となる 伊沢(留守)氏が赴任する 岩切で定期的に市が開かれる (13世紀頃)
	早期		南北朝	1334年	建武の新政 南北朝にわかれ対立する
	前期	六反田遺跡など平野部にもムラが営まれる 上野遺跡・高柳遺跡・山田上ノ台遺跡など 大規模なムラがあらわれる		1338年	足利尊氏、征夷大將軍となる
	後期	下ノ内浦遺跡・大野田遺跡で 配石遺構がつけられる	室町	1392年	南朝と北朝が一つになる 仙台市内各地に城館が造られる
弥生	BC400年頃	大陸から稲作文化が伝わる 東北地方で稲作が始まる	安土桃山	1573年	織田信長が室町幕府を滅ぼす
	前期	中在家南遺跡や押口遺跡、 沓形遺跡など仙台平野で稲作が行われる 仙台平野で震災(地震・津波)がある 邪馬台国の卑弥呼が魏に遣いを送る(239)		1590年	豊臣秀吉が全国を統一する
	中期	戸ノ内遺跡、安久東遺跡で 方形周溝墓がつけられる 遠見塚古墳がつけられる	江戸	1603年	徳川家康、征夷大將軍となる 伊達政宗、若林城造営に着手(1627) 伊達忠宗、仙台城二の丸造営に着手 (1638)
古墳	500年頃	大陸から須恵器生産などの先進技術が伝わる 大蓮寺窯跡で須恵器の生産が行われる (5世紀中頃)	明治	1868年	明治維新
	後期	600年頃		仏教が伝わる(538) 大化の改新 郡山遺跡I期官衙が造営される(7世紀中頃) 郡山遺跡II期官衙と付属寺院が造営される (7世紀末頃)	
飛鳥	終末期 (古墳時代)	645年			

※赤文字は仙台市内の遺跡に関わる事項です。

せんだい 発掘ミュージアム



発掘

調査

ほる
なおす
しらべる

活用

つながる
あるく

はじめに

仙台市内には780ほどの遺跡があります。遺跡とは、住居などの動かせない生活痕跡である遺構と、道具やうつわといった動かせる物である遺物が埋まる範囲です。

発掘調査は遺跡の内容を明らかにしていくことです。大学や研究機関による学術調査と、開発等に伴って発掘調査が行われる場合があります。

遺構や遺物から遺跡の内容を知り、私たちの住む仙台市が、それぞれの時代の人々にとって、
 どういう生活の場であったのか、パズルのかけらを集めてどんな絵なのかを知るように、
 地域の歴史を復元しているのです。



ほる

発掘調査では、まず土を掘り遺跡をあらわにします。仙台市教育委員会による開発に伴って行われる発掘調査の内容を主に、その手順を紹介します。

発掘調査の手順

- 1 掘る範囲をきめて、現代に造成された盛土などを重機で掘削します。
- 2 側面をきれいにしながら、土層を確認します。
- 3 穴が見つかったら、まず半分だけ掘ります。穴にどのような土が堆積しているかを観察し、自然に埋まったものか、人が埋め戻したものかなどを確認します。
- 4 断面図を作り、分かったことなどをメモしてから残していた半分を掘ります。
- 5 全て掘りあげたら、穴の平面図を作ります。
- 6 遺物が出土すると、出土状況のくわしい図面を別に作る場合もあります。
- 7 調査した範囲についても、平面図と側面の土層断面図をつくります。
- 8 調査中は適宜、写真を撮ります。

こうして、遺跡は写真や平面図・断面図、遺物の出土記録などの一次資料となります。これらを整理してまとめた埋蔵文化財発掘調査報告書として刊行されることで、記録保存されるのです。



重機掘削



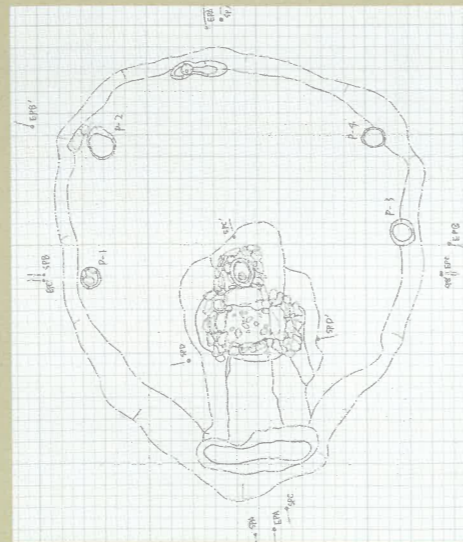
遺構精査



遺物の出土



測量・図化



竪穴住居の平面図

なおす

長い間、土の中にあった遺物は、破損し、汚れています。発掘調査で出土地点などを記したカードと一緒に、袋詰めして持ち帰った遺物は、水洗いされます。水洗後によく乾かしてから、先ほどのカードに書かれた内容などを、遺物に直接書き込むネーミング作業をします。

ネーミングが終わると、接合を行います。一つの個体だと考えられる破片を集め、接着剤でつなげていきます。見つからない箇所に充填剤を入れ、修復します。



水洗い



ネーミング



接合



修復

木製品の保存処理

土器や石器といったものの他に、金属製や木製の遺物が出土することがあります。木製の遺物は、長い年月で腐食し土に変化するため、低湿地など、湿潤な土壌に含まれているときなどの条件がそろわないと遺物として残りません。縄文時代の漆塗り製品などは塗膜だけが残り、木の部分はなくなった状態で出土したりします。平成25年度に調査した中在家南遺跡隣接地では河川跡が見つかり、その川底から弥生時代や古墳時代の大量の木製品が出土しました。これらは土から空気中に露出すると、木材内部の水分が蒸発し、収縮や変形して壊れてしまいます。まずは湿らせた布などで覆い、乾かないようにします。取り上げたら水を溜めた容器に収納します。



木製品出土



湿らせた布で覆う



発砲ウレタンで形状保護



木製品出土



水漬け

木製品の
 状態によって
 保存処理の方法
 を検討します

その後、木製品の状態によって保存処理の方法を決めます。腐食を止める薬液をしみこませるなどの比較的簡単な方法から、専門機関に依頼して専用の機器を用いて行う真空凍結乾燥法や、P. E. G. (ポリエチレングリコール) 含浸法など、複数の方法があります。

しらべる

発掘調査は、ほる中でしらべることの連続です。遺構が重複していれば、どちらが、より新しい遺構かがわかります。遺構を埋める土が自然に堆積した土とは違うのであれば、人が意図的に埋め戻したことを考えたり、川の氾濫で一息に埋まってしまった可能性など様々なことを考えたりします。遺跡が語るストーリーを読み解くためには、とても注意深くしらべなければなりません。

発掘調査を行い、研究されてきた積み重ねにより、各時代の住居の形態の違いや、どんな遺物がともなうのか、など色々なことがわかってきています。集落の構造や、地域間の違いなどから、モノの流れ、人の交流がわかることもあります。これまでに分かっていることを元にしなが、それまで分からなかった新しい発見を積み重ねていきます。

土器の時期別いろいろ(仙台市内出土品)

古い

新しい

縄文時代



前期



中期



後期



晩期

弥生時代



前期



中期



後期

古墳時代



前期



中期



後期

科学分析

専門の機関に依頼して科学分析を行うこともあります。木製の遺物であれば使われた木の種類をしらべる樹種同定を行ったり、炭化物から科学的に年代を知りたい場合炭素年代測定などの方法で調べます。

金属製の遺物であれば、含まれる金属の種類や含有率から、どういった合金なのかを調べます。火山灰の層が見つければ、その成分分析と比較で、いつ、どこから噴出して降り積もったものかを調べます。見つかった水田跡の耕作土を分析すると、イネのプラント・オパール(植物に含まれているガラス質の物質で半永久に残るものです)や、当時の環境がわかる植物の花粉などが発見されることがあります。



イネのプラント・オパール



ハンノキ属の花粉

つながる

発掘調査による報告書や、発掘で見つかった土器などの遺物は大切に保管され、みなさんに出会い、昔と今がつながる日を待っています。ここでは、遺物や記録類がどのように保管されているのか、どのような形で活用されているのかを紹介します。

施設

仙台市向田文化財整理収蔵室

遺跡から出土した遺物などの資料が、1万箱以上保管されています。遺物の貸し出しや中学生の職場体験などで利用されています。



▲向田文化財整理収蔵室

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)

約2万年前、旧石器時代に生きた人達の活動跡と森林跡が、発掘されたままの状態にて保存・公開されています。

“世界中でここだけ”の展示です。

住所:仙台市太白区長町南4-3-1/電話:022-246-9153

仙台市縄文の森広場

約4000年前、縄文時代中期の末頃のムラの跡である、山田上ノ台遺跡の調査成果を中心に展示しています。屋外には縄文時代の竪穴住居が3軒復元されています。

住所:仙台市太白区山田上ノ台町10-1/電話:022-307-5665

活動

出前授業・講座

学校や市民センター、町内会など指定の場所に伺い、さまざまなテーマで授業・講座を行います。

「ふるさと仙台の歴史をたどって」「遺跡等からさぐる災害の歴史」など幅広いテーマを扱うほか、縄文土器や仙台城の瓦など、本物に触れる機会もご用意しています。



▲出前授業

展示会

埋蔵文化財の他、歴史的建造物や伝統芸能など文化財全般に関する成果を、さまざまな機会にパネル展示等でご紹介しています。年2回の文化財展や街中の文化財を紹介するふらり仙台文化財展のほか、市民センターまつりなどにも出展しています。



▲文化財展

文化財サポーター養成講座

年間8回程度の講座を通して、市民の方々に仙台市の文化財に興味を持っていただく企画です。座学だけでなく、市内の文化財巡りや、発掘体験なども行っています。例年7~8月に受講希望者を募集しています。

刊行物

文化財せんだい

仙台市の文化財についての様々な情報を発信している広報誌です。年3回の発行で、市役所本庁のほか、各区役所・文化センター・市民センター・各図書館でも配布しています。



▲文化財せんだい

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24年度末で第417集までが刊行されています。大学などの学術研究機関や他の教育委員会等に配布され発掘調査や歴史研究に使われます。

一般の方々はせんだいメディアテーク内の仙台市民図書館、宮城県図書館等でご覧いただけます。

活動・刊行物の問合せ:教育局文化財課 022-214-8893

あるく

遺跡は地中に眠っており、普段目には見ることができません。しかし、仙台城跡の本丸登城路のように、往時の名残を残し、歴史を感じることでできる場所があります。本丸への登城路は、2つのルートがあります。築城時に使われていたとされる巽門ルートと、大手門が完成してから使われるようになった大手門ルートです。どちらのルートにも、敵の侵入を防ぐための門跡の石垣や曲がりくねった道が残されています。

るーぶる仙台
博物館・国際センター前から

大手門ルート (本丸まで約15分)
巽門ルート (本丸まで約20分)



※ 現在石垣の修復工事を行っているため、通行止めとなっています。修復工事は、平成27年3月まで行う予定です。



④本丸北壁石垣



①巽門跡(礎石)



①大手門脇槽(復元)

学術調査と復旧の様子



石垣の崩落状況



発掘調査の様子



石垣解体の様子



石垣積み直しの様子

仙台城跡では、震災で石垣の一部が崩落してしまいました。それらを修復するため、現在は石垣の解体・積み直しを行っています。工事に入る前には発掘調査を行い、工事範囲にどのような遺構が残っているのか調べました。解体の途中にも石垣の造られ方などを調査しながら工事が進められています。

一部の石垣では積み直しが始まり、以前の立派な姿に戻りつつあります。

仙台の遺跡

仙台市内には約780の遺跡があります。ここからは、仙台を代表する遺跡を時代ごとに紹介していきます。

旧石器時代 富沢遺跡 (太白区)

昭和63年(1988年)の調査で、約2万年前の氷河期の森の跡が発見されました。火を焚いた跡と、その周りでは石器も見つかっており、当時の人が火を囲み、石器を製作した様子が想像されます。現在は「地底の森ミュージアム」として、保存・公開されています。



発見された樹木

縄文時代 山田上ノ台遺跡 (太白区)

昭和55年(1980年)の調査で、竪穴住居跡38軒、土抗(地面を掘りくぼめた穴)320基以上、ゴミ捨て場と考えられる場所3カ所などが発見されました。縄文時代中頃の大きなムラの跡であることが分かり、現在は「縄文の森広場」として、保存・公開されています。



竪穴住居跡

弥生時代 中在家南遺跡 (若林区)

見つかった生活の痕跡はいずれも弥生時代中期のもので、ムラの跡からはたくさんの弥生土器や石庖丁などの石器が発見されています。ムラに並行する河川跡からは、捨てられた土器や石器の他に、水漬け状態で埋まったため腐らずに残った農具などの木製品がたくさん出土しました。



出土した堅杵

古墳時代 遠見塚古墳 (若林区)

古墳時代前期の4世紀末に造られたもので、県内では名取市の雷神山古墳に次ぐ大きさの前方後円墳です。後円部のほぼ中央部に割竹形木棺を2基埋葬しており、棺内からは副葬品として碧玉製管玉1点、ガラス小玉4点、竪櫛18点が出土しています。

ガラス小玉



古墳全景

飛鳥・奈良時代 郡山遺跡 (太白区)

太白区郡山にある官衙(役所)跡・寺院跡です。昭和55年から発掘調査が継続して行われ、多賀城創建以前の陸奥国府が置かれたことや、付属寺院(郡山廃寺)が造られたことが明らかになっています。周辺の長町駅東遺跡や西台畑遺跡、大年寺山横穴墓群などの関連性も指摘される重要な国史跡—仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡—です。



石組池跡

平安時代 与兵衛沼窯跡 (宮城野区)

宮城野区与兵衛沼周辺に広がる台原・小田原窯跡群の一つです。平成18年の調査で、奈良時代や平安時代の瓦が大量に見つかりました。ここで作られた瓦は、多賀城や陸奥国分寺に供給されていました。貞観11年(869)に起きた陸奥国大地震の建物復旧に利用されたことが分かっています。



ロストル式平窯跡